

# 令和7年度第3回仙台市宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 令和7年度まちづくり活動助成事業実績報告及び事後評価 議事要旨

日 時：令和8年2月19日(木) 午後6時30分～7時15分

場 所：宮城野区中央市民センター 3階 第3会議室

出席者：大西委員長、安部副委員長、千田委員、羽賀委員、眞野委員  
まちづくり推進課

## 1 開会

## 2 事業報告及び質疑応答

### (1) 事業名：地域で目指す親子の育ちあい事業

団体名：KOSODATE 応援会【3年目】

#### <質疑・意見>

委 員 今後、これまでの活動をベースとして、どのような活動を展開していくのか教えてほしい。

発表者 保育所・幼稚園への入所や小学校への進学など、それまで受けていた子育て支援が途切れてしまうタイミングがある。児童館は、対象年齢が0歳から18歳までであり、児童クラブなどの機能もあるため、幼児期から就学期へ支援を自然に繋げる機能を持っていると考える。児童館を利用したことの無い人が、このプログラムを通じて児童館や職員の雰囲気を知り、利用が広がるような、親子と児童館の橋渡しになればと思う。また、最近は保育園・幼稚園を利用する年齢が早く、児童館の乳幼児支援を実感しない家庭が多くなっている。このプログラムは、そうした家庭が就学期に安心して児童館を利用できるようにすることにも繋がれると考える。

委 員 「アフタヌーンティー」は榴岡児童館の方から申出があったのか。

発表者 榴岡児童館から声掛けがあった。児童館も、こどもの年齢関係なく保護者を集めるにはどうしたらいいのかを考えている。このプログラムが0歳から18歳を対象にしていることを生かして、人を集めるきっかけとして利用してもらった。

委 員 「アフタヌーンティー」と題してポジティブ・ディシプリン®のプログラムと同様のことを行ったということか。

発表者 同じものではなく、これまでのプログラムの参加者が「アフタヌーンティー」に参加したという同窓会のようなイメージである。プログラムに参加したことがある人に限らず、興味があれば幅広く参加可能だが、最初の声掛けは今までプログラムに参加した方に行った。

委 員 今回参加申込をされた6名の方は、全員1回目からの申込みなのか。途中から参加する方はいなかったのか。

発表者 このプログラムは全ての回が繋がっているという性質上、途中から入るのは難しいので全員が最初から参加している。

委 員 「引っ越してきたばかりで今日初めて児童館に来た」という方もかなり多い地域だと思う。途中から参加したい場合に何かフォローアップができるような仕組みができると、より参加者が増えて繋がりやすくなると感じたが、そのような点を含めた今後の展開として考えていることを教えてほしい。

- 発表者 そこにも「アフタヌーンティー」が役に立つと思う。既にプログラムに参加したことがある人も、これから参加してみたいという人も集まって交流を重ねることで、次のプログラム開始時期までモチベーションを繋げることが出来ると考えている。
- 委員 参加した方がアウトプットできることは理解が深まる過程だと思うので、参加人数に捉われず、ぜひ地道に続けていってほしい。

(2) 事業名：宮城野区に市民の手で仙台門松を建てよう  
団体名：仙台門松・みやぎの発信隊【2年目】

<質疑・意見>

- 委員 チラシに「参加費：実費（材料費等）6,500円」とあるが、材料費は全て参加者からいただいたということか。
- 発表者 ミニ門松の材料費は全ていただいている。
- 委員 サポーターや参加者、新加入がかなり増えたことに驚いた。これはどのようにPRをして獲得したのか。
- 発表者 拠点のとみさい館に通う宮城野区の方々に特別会員になってもらい、毎月の定例会の情報を発信したり、お手伝いをしていただいたりした。また、会費を貰わない「サポーター」というメンバーを新たに導入し、町内会長など地域の方に次世代への推進をしてもらうということで、町内会から2名の加入があった。当団体には宮城野区外のメンバーも多いため、実際に活躍している地域の方々に協力してもらい、今後の推進や会場探しをして、地域への普及を図っている。市民センター等から既に来年の要望も来ており、大変関心を示していただいている状況である。

(3) 事業名：地域防災を切り口にした“ごちゃまぜ新田”のまちづくりプロジェクト  
団体名：新田地区SBL連絡協議会【1年目】

<質疑・意見>

- 委員 問題点として挙げられている、「現役である年齢が拡大していく中で地域活動の仕組みを作っていく岐路にあることが課題」ということについて、具体的に教えてほしい。
- 発表者 定例会を重ねているが、まずメンバーの時間が合わない。協議会では、会議に参加できないと会話についていけないというようなことが無いように、LINEのグループを作り、常に情報共有ができるように工夫をしている。
- 当団体のメンバーはほとんど町内会の役員など他の役割を兼任しているが、集まりに行けないから地域の手伝いを断っているという声も聞く。新田地区全体のまちづくりを考えたときに、現役世代が活躍できるモデルを作って地域に派生させていくということは必要だと考える。
- 委員 収支決算書を見ると、印刷物の制作だけで20万円近く経費がかかっている。プロにデザインを依頼するとやはりお金がかかるので、もう少しうまくできれば活動費の方を増やせるのではないか。
- 発表者 チラシ等の印刷費については、通常だと今回の倍はかかる場所、かなり減額をもらった。また、現役世代には時間がなく、印刷物を誰かに頼まなければ他の活動は全くできなかったと思う。やりたいことをやる時間を捻出するためにプロに頼み、そのおかげで今回の活動を実現できたという点を認めていただきたい。
- 委員 学校支援地域本部（スーパーバイザー（SV））の存在や立ち位置が一般的に明確に理解されていないという課題は鋭い推察だと思う。学校との連携において、具体的にどのように活動したのか。

発表者 当団体には小中学校の PTA 会長や SV が在籍している。学校と地域を繋ぐのは本来 SV の役割だが、まだ学校の中でも周知できておらず、学校から SV への伝達にどうしてもタイムラグが生まれている状況である。

また、地域の方が学校と連携して何かを行うときには SV を通すことになっているものの、その役割自体が地域に十分に理解されていないため、多方面で齟齬が生じてしまう点を是正する必要がある。

そこで今年は、連合町内会の新年会の案内を、学校だけでなく SV にも出すよう町内会に提案した。民生委員や PTA 会長の立場で出席していた方が、任期終了後は参加できなくなるのは、繋ぐ立場である SV の役割を発揮しにくくなる。あわせて、小中学校に対しても、管理職と SV が一緒に新年会に出席するように依頼したところである。

### 3 閉会